

令和5年産

# 大崎稲作情報 第7号

令和5年7月21日発行

宮城県米づくり推進大崎地方本部

大崎農業改良普及センター

TEL:0229-91-0726 FAX:0229-23-0910

<https://www.pref.miyagi.jp/site/osnokai/>

## 今後の管理のポイント

- ・ 出穂期が早まる見込みです。遅れずに適期管理をしましょう。
- ・ 6月下旬以降、葉いもちに感染しやすい気象条件の日が多くなっています。予防剤の効果が低下してくる時期ですので、ほ場を見回り、病斑を確認したら直ちに防除しましょう。

## 1. 気象経過

6月第2半旬以降、高温傾向が続いています。7月以降は、気温はかなり高く、日照時間は多めに推移しています。第4半旬にはまとまった降雨がありました。

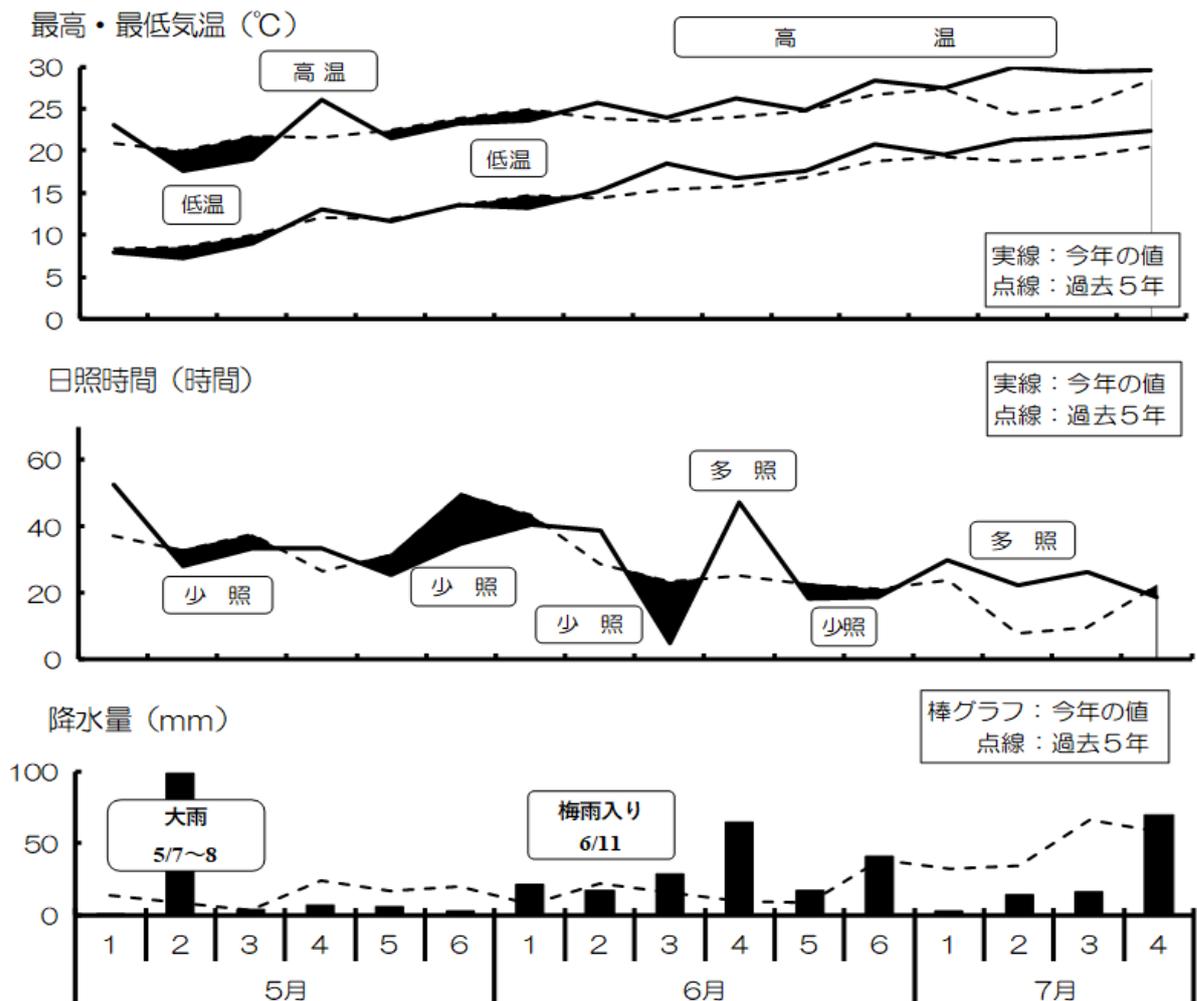


図1 5～7月の気象 (古川アメダス)

## 2. 生育概況（7月20日現在）

草丈は平年を上回り、莖数は平年よりやや少なめの傾向です。葉色は前回調査より低下していますが、概ね幼穂形成期・減数分裂期の目安の範囲にあります。

幼穂長調査の結果、移植栽培については全て幼穂形成期に達しており、移植時期の早いものについては減数分裂期に達しています。

表1 生育調査結果

品種名	地区名	田植・ 播種月日	草丈 (cm) (平年比)	莖数 (本/m <sup>2</sup> ) (平年比)	葉数 (枚) (平年差)	葉色 (SPAD) (平年差)	幼穂長 (mm) (平年差)	幼穂形成 始 期 (平年差)	減 数 分裂期 (平年差)	備考
ひとめぼれ	大崎市三本木	5月5日 (+1)	86.5 (111%)	497 (95%)	12.8 (+1.1)	34.0 (-3.5)	168.8 (+91.8)	7/3 (-3)	7/14 (-2)	
ひとめぼれ	加美町小野田	5月17日 (+1)	76.4 (103%)	454 (88%)	12.3 (+0.6)	35.7 (-4.3)	19.8 (-9.1)	7/10 (0)		
ササニシキ	大崎市古川	5月5日 (-4)	79.9 (108%)	454 (85%)	12.3 (+0.2)	36.1 (-1.0)	192.8 (+172.2)	7/7 (-4)	7/17 (-4)	
つや姫	色麻町四竈	5月4日 (0)	74.4 (92%)	544 (94%)	11.9 (-0.5)	35.1 (-2.0)	2.5 (-3.7)	7/18 (+7)		前年比・差
だて正夢	大崎市三本木	5月12日 (-3)	85.5 (107%)	397 (114%)	12.2 (+0.5)	32.7 (-4.0)	129.0 (+117.5)	7/8 (-1)	7/18 (-1)	
金のいぶき	大崎市三本木	5月11日 (-3)	84.6 (101%)	514 (109%)	12.6 (+0.6)	31.7 (-3.1)	35.2 (+21.4)	7/10 (-3)	7/20 (-2)	前年比・差
ゆみあすさ	加美町平柳	5月21日 (-)	77.1 (-)	371 (-)	11.3 (-)	32.2 (-)	54.2 (-)	7/9 (-)	7/19 (-)	新規
ゆきむすび	大崎市鳴子温泉	5月23日 (0)	63.3 (103%)	321 (80%)	11.1 (-)	41.4 (-2.9)	52.6 (+43.3)	7/8 (-6)	7/19 (-4)	前年比・差
みやこがねもち	大崎市岩出山	5月17日 (0)	71.3 (106%)	481 (94%)	12.1 (+0.1)	34.3 (+1.6)	10.8 (+5.5)	7/13 (-3)		
ひとめぼれ (湛水直播)	加美町米泉	5月3日 (-2)	78.9 (118%)	570 (109%)	9.4 (-1.0)	36.5 (0.0)	7.8 (+5.4)	7/15 (-5)		
平均 (平年値のあるほ場のみ)		5月11日 (-1)	79.9 (107%)	457 (95%)	12.3 (+0.5)	34.6 (-2.2)	104.2 (+75.6)	7/8 (-2.2)		

※平年比・差は前5か年（平成30年～令和4年）の平均値との比較

幼穂形成期・減数分裂期の平年差はマイナスは早く、プラスは遅いことを示す。

表2 生育ステージ予測

田植時期	田植始期	田植盛期	田植終期	7/21現在、7/21以降はアメダス平年値で予測。今後、高温で推移する場合は、予測よりも早まる場合がある。
	5月2日	5月10日	5月19日	
幼穂形成始期	6月30日	7月4日	7月11日	
減数分裂期	7月9日	7月13日	7月19日	
出穂期	始期 7月23日	最盛期 7月27日	終期 8月2日	
平年（前5カ年）との差	6日早い	5日早い	5日早い	

※田植え時期はR5年の大崎普及センター管内平均。

## 3. 追肥

基肥の窒素肥効が無くなり、籾数の不足や登熟不良が予測される場合は追肥によって生育調整を図りましょう。

### ～ 近年の品質低下（白未熟粒の発生）について ～

近年は穂揃期の葉色低下や高温登熟により、白未熟粒等が発生し品質低下することが多くなりました。葉色の急激な低下（窒素栄養の不足）を防ぐため、適切な追肥を検討しましょう。

● 追肥の主な効果

追肥は白未熟粒の発生軽減や光合成能力の向上等の共通した効果に加え、施用時期によっても異なる効果が現れます。

表3 追肥の主な効果・影響（◎：効果高い、○：効果あり、×悪影響あり）

		穂数の増加	1穂穎花数の増加	1穂穎花数の減少防止	登熟の良化	下位節間の伸長と倒伏	玄米タンパク質の増加
施用時期	幼穂形成期	○	◎	○		×	
	減数分裂期		○	◎	◎		
	穂揃期				○		×

● 追肥の目安（施用時期・施用量）

表4 追肥の目安

品種名	幼穂形成期（幼穂長:1~2mm） 出穂25~20日前		減数分裂期（幼穂長:30~120mm） 出穂15~10日前	
	施用量 (N成分/10a)	葉色（SPAD値）	施用量 (N成分/10a)	葉色（SPAD値）
ひとめぼれ	1.0kg	38~40	1.0kg	35~37
ササニシキ	—	—	1.0~1.5kg	32~34
つや姫	2.0kg	35~37	—	—
だて正夢	—	—	2.0kg	37~39
金のいぶき	1.0kg	33~35	1.0kg	30~32
まなむすめ	2.0kg	35~37	—	—

※参考 だて正夢  
幼穂形成期までの生育量が少ない場合は、幼穂形成期・減数分裂期にそれぞれ「窒素成分1.0kg/10a」ずつ追肥することで、適正粒数の確保に努めましょう。

#### 4. 病害虫防除 出穂予想に基づいて適期に実施

- ✓ **6月下旬以降、県広域で葉いもちの感染好適条件が連続して出現しています。**
  - ほ場をよく見回り、発病が見られた場合は直ちに茎葉散布剤で防除しましょう。
  - 7月中旬以降は予防粒剤の効果が低下し始めるとともに、追肥で葉色が濃くなり、葉いもちが感染しやすい環境となるので特に注意しましょう。
  - 上位葉での発病は穂いもちの重要な伝染源になります。穂いもち予防のため水面施用剤を施用する場合は、使用時期を失しないように注意しましょう。ただし、葉いもちの発生が確認された場合は、水面施用剤施用前に茎葉散布剤を散布しましょう。
- ✓ 紋枯病は、前年に多発したほ場では防除を徹底しましょう。
- ✓ 稲こうじ病は、窒素過多で発生が助長されるので追肥の際は注意しましょう。
- ✓ 宮城県病害虫防除所の巡回調査では、イネ科植物が出穂している牧草地及び雑草地におけるアカスジカスミカメの発生地点率は平年よりやや高く、すくいとり虫数は平年並でした。多発の原因となるイヌホタルイやノビエが残草したほ場では、1回目の殺虫剤散布を出穂始期～穂そろい期に早めましょう。





東北地方 1 か月予報  
(7月8日から8月7日までの天候見通し)

令和5年7月20日  
仙台管区气象台 発表※抜粋

<特に注意を要する事項>

期間のはじめは、気温がかなり高くなる見込みです。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

		低い(少ない)	平年並	高い(多い)
【気温】	東北地方	10	20	70
【降水量】	東北地方	30	40	30
【日照時間】	東北地方	30	40	30

<気温経過の各階級の確率(%)>

		低い	平年並	高い
1 週 目	東北地方	10	10	80
2 週 目	東北地方	20	30	50
3~4週目	東北地方	20	40	40

乾田直播情報

乾田直播栽培の生育調査をしました。草丈は61cm、茎数は617本/m<sup>2</sup>、葉数は10.3枚、葉色は33.9でした。6月上旬以降の高温により、順調に生育が進んでいます。



7/11の生育状況



7/19の生育状況